

地理学会ニュース 2018年度 第2号

法政大学地理学会 2018年10月15日発行

選挙管理委員会について

2018年6月8日に開催された2018年度第2回常任委員会にて、選挙管理委員会の推薦、選出を審議し、以下の3名に委嘱いたしました。その結果、3名からは就任承諾が得られましたので、ここにご報告いたします。

委員長 山口隆子（東京） 委員 猪狩彬寛（東京） 委員 矢巻 剛（東京）

選挙管理委員会 公示1号

2018年9月30日

法政大学地理学会選挙管理委員会

2019～2020年度法政大学地理学会評議員の選挙を、法政大学地理学会評議員選挙細則に則り、下記の日程および要領で実施します。

記

◆投票用紙の配布

一般会員に対して、本年12月上～中旬発行予定の「法政大学地理学会ニュース第3号」に投票用紙を同封して送付する。

◆投票受付

すべての投票は郵送によって受け付ける。ただし、2019年1月15日（火）迄必着とする。

◆投票用紙への記入方法

投票用紙に15名以内の氏名を連記する無記名投票とする。なお、記入に関する注意事項は、投票用紙の欄外に明記する。

◆被選挙人

評議員選挙細則第5条に基づく評議員被選挙人名簿（法政大学地理学会ニュース第3号に同封）による。

◆開票

評議員選挙細則第6条に基づき、2019年1月17日（木）に選挙管理委員会において開票し、有効投票数の多い順から20名の評議員を決定する。なお、投票の有効・無効の判定、および同数得票者が生じた場合の取り扱いについては、選挙管理委員会が決定する。

以上

法政大学地理学会2018年度第2回例会(巡検)の案内

テーマ：東京東部臨海地域の歴史地理
—江戸、浦安の舟運と現代臨海部の水辺空間—

日程：11月17日(土) 10:30~16:30
集合場所：都営新宿線 **大島口改札前** 集合
集合時間：10:30
解散場所：東京メトロ東西線浦安駅
解散時間：16:30
案内者：前本英明、小原丈明、米家志乃布など
参加費用：実費(電車代、昼食代、資料館入館料)
定員：なし(申し込み不要)、集合時間に集まったメンバーで出発

主な見学場所とタイムスケジュール

10:30 都営新宿線 東大島駅南口集合(徒歩)
↓
10:40~11:40 中川船番所資料館見学(団体で150円)(徒歩)
↓
11:40~12:00 中川船番所跡経由で荒川ロックゲート見学(徒歩)
↓
12:00~12:30 小名木川経由で砂町銀座商店街(徒歩)
↓
12:30~13:30 砂町銀座商店街にて各自小グループで昼食
↓
13:30~14:00 仙台船堀公園を經由して東西線南砂町駅(徒歩)
↓
14:00~14:15 東西線で南砂町駅から浦安駅へ移動
↓
14:15~14:45 浦安郷土博物館に移動(徒歩)
↓
14:45~15:45 浦安郷土博物館見学(無料)(徒歩)
↓
15:45~16:30 船宿街など見ながら東西線浦

安駅に戻る(解散)

↓

16:30~ 希望者のみ浦安駅付近で懇親会

お願い 各目的地間では徒歩が続きます。歩きやすい靴でご参加ください。また、上記見学のタイムスケジュールはあくまでも目安です。途中、変更があり得ることをご理解ください。懇親会参加者は浦安郷土博物館で希望をとります。浦安駅北側には「プラタモリ」でも紹介された魚市場があります。時間に余裕があれば見学したいと思います。

第2回例会(巡検)のご案内

今年度の巡検は、東京東部臨海部における、運河を利用した舟運を中心とした歴史地理と、現代の臨海部の水辺空間を、地盤沈下や埋立てに注目しながら見学したいと思います。

昨年の巡検で埼玉県荒川の上流(秩父)を訪れましたが、その秩父の木材を旧荒川で江戸まで運び、それを貯留した木場を中心に発達した場所です。また江戸後期には小名木川などの運河も整備され、材木だけでなく、さまざまな物資が中川、旧江戸川などを通じて江戸に運ばれ、江戸の物流ターミナルとして機能してきた地域です。その物流を監視していたのが中川船番所であり、その資料館で当時の舟運について学習します。

近代に整備された荒川放水路(現荒川)と江戸時代から続く運河には水位差があるため(地盤沈下の影響も大)、荒川ロックゲートという閘門式ゲートがあり、水位調整を行ってプレジャーボートなどが東京湾と運河を行き来しています。現在は多くの運河は埋め立てられ、公園などとして利用されていますが、小名木川などはまだ残されています。その現代的な意義も考えてみましょう。その後は南へと歩を進め、昭和の雰囲気の色濃く残す砂町銀座で食事した後、東西線で浦安に移動します。

ちなみに砂町銀座は2005年に日本経済新聞社がおこなった訪れてみたい商店街コンテストで全国第3位に選ばれました。浦安は「プラタモリ#58」でも紹介された、かつて漁港として

発展した町です。江戸時代に漁港であった浦安に集められた新鮮な江戸前の魚介類は、海に出ることなく運河を通して、安定して日本橋まで運ばれて江戸庶民の食卓を支え、大きく発達したと言われていました。昭和初期までは沖合に広がる干潟でとれるアサリが有名でしたが、1958年の工場の廃液事件やその後の干潟の埋立てなどにより、アサリ漁はすっかり廃れてしまいました。

現在、浦安といえは1982年に開設された東京ディズニーランドの町として有名ですが、その浦安の当時の生活などを、浦安郷土博物館や、大島家住宅、旧船溜跡、現在も営業する船宿街、(できれば最近移設された観光魚市場)などを見学したいと思います。

学生の皆さんは地理学科に入学した時点で学会員になっています(通教学生は入会手続きが必要ですが)。大学の正規の授業だけでは得られない地域学習のチャンスをぜひご利用ください。

法政大学地理学会集會委員会

巡検の問い合わせ先

◎集會委員会メール: shukai@chiri.info

◎今回は参加申し込みの必要はありません。当日上記集合場所に遅れずお越しください。定刻で出発します。遅れて参加される方は、上記予定をご覧ください。時間に依りてその場所に直接お出でください。また途中でお帰りになっても結構です。上記メールは当日も通信可能です。

法政大学地理学会 2018年度第1回例会報告 シンポジウム「東京の水環境の現状と課題」

6月30日(土)、14:00~17:00にかけてシンポジウム「東京の水環境の現状と課題」を開催しました。会場は法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲートG402教室でした。

地球規模の環境変動により、われわれが利用できる水の価値がより一層重要性を増しています。特に世界的な大都市「東京」において、現在「水環境」に関する課題にはどのようなものがあるのか、これらを知り、対処していくことは喫緊の課題と考えられます。本シンポジウム

では、東京の水環境を、河川、地下水、東京湾、水害という視点から、それぞれの専門家に講演を依頼し、大都市東京が直面している水に関する課題についてご紹介いただきました。

シンポジウムは司会の前杵(法政大学文学部)から開会の挨拶と簡単な趣旨説明がなされた後、小寺浩二氏(法政大学文学部)から「東京の河川環境の変化と課題」、三家本史郎氏、古川正修氏、柴崎洋二氏(国際航業)から「東京の地下水環境の変遷—過去の調査事例から—」、休憩をはさんで三枝 隼氏(海上保安庁海洋情報部環境調査課)から「東京湾の水環境」、坪井塑太郎(国土防災技術株式会社)から「東京の水辺環境と水害」の講演をいただきました。その後、全体に渡っての質疑応答を行いました。

講演内容は「法政地理」の次号に掲載される予定ですので、詳細はそちらをご覧ください。ニュースでは簡単に紹介させていただきます。小寺浩二氏(法政大学文学部)からは、東京の河川環境の変化と課題について、主に河川水の化学分析の結果をもとに解説して頂きました。三家本史郎氏、古川正修氏、柴崎洋二氏(国際航業)からは、過去の調査事例の紹介を中心に、東京の地下水環境について、水位変化などを中心に解説して頂きました。三枝 隼氏(海上保安庁海洋情報部環境調査課)からは、東京湾の水環境に関して、生態系や水質、海洋物理など、総合的にたいへんわかりやすく解説して頂きました。坪井塑太郎氏(国土防災技術株式会社)からは、東京の主に沖積平野で起こる水害(洪水や高潮)について、過去の事例の紹介を中心に解説して頂き、また今後の課題などについて紹介して頂きました。

参加者は69名と多くの方に参加して頂きました。築地市場の豊洲移転など、水環境に関する世間的な関心が高まる中、今回の例会はたいへん興味深い発表ばかりで、会場は発表が終わると質問があり、また総合討論でもさまざまな質問や意見が飛び交い、たいへん有意義な例会だったと思います。その後開かれた懇親会でも、予想を上回る人たちの参加が得られ、夜遅くまで楽しい時間を過ごすことができました。

ご講演をいただいた4名の講師の方々、そして会場に足を運び、積極的に議論にご参加いただいた多くの会員諸氏に感謝する次第です。

(前本英明 法政大学)



写真 講演する小寺浩二氏



写真 例会後に開かれた懇親会も盛会でした



写真 会場からの多くの質問で盛り上がる総合討論



写真 70名近い参加者を集めた今回の例会



写真 会場からの積極的な質問

会計委員会より

今年度の会費未納の会員様におかれましては速やかな納入をお願いいたします。本学会は会員皆様の会費によって運営されておりますので、その点をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

住所不明者(敬称略)

阿部智臣・後藤良太・佐藤功・田口圭子・塚本裕子・増田俊樹・吉田正人

上記の方の連絡先をご存知の方がいらっしゃいましたら、学会まで連絡先をお知らせいただけますよう、ご本人様にお声かけをお願いいたします。

また、住所変更や卒業して所属が変わるなどの会員情報の変更が生じた際には、至急学会までお知らせください。特に通信教育部所属の学生会員の情報は個人情報保護・管理の観点から大学事務から学会への連絡は一切ございません。それから、振込用紙を利用した振り込みの際に、記入された情報が機械への読み込みの関係でつぶれて正確に読み取れないケースがあります。せっかくお知らせ頂いた会員情報の確認ができないこともありますので、ご面倒ですが会員情報の変更の際には振込用紙への記載に加えて、当学会まで一報をお願いいたします。

➤ 会員動向

【入会】(2018.4.1～9.21 まで。敬称略、申込順)

・[一般] 小松原 琢(茨城)／富樫 弘悦(秋田)
／田中 みちよ(新潟)／蓑田 道(東京)
・[学生] 石井 智憲(福島)／草野 晋二(神奈川)
／筒井 俊元(高知)／久保 敦雄(京都)／加藤
芳則(群馬)／丹波 光夫(兵庫)

「法政大学地理学会創立70周年記念論文集」 —編集作業の進行状況の報告とお願い—

「法政大学地理学会創立70周年記念論文集」の発刊は5月12日に開かれた2018年度地理学会総会で承認されました。内容の詳細は「地理学会ニュース」1号でお知らせしましたように、それには執筆規定と執筆要項、原稿提出締め切り日と発刊日程などを掲載しました。

本学会では「論文集」の発刊は初めてのことで執筆の申し出がつかめなく、困難を予想していましたが記事掲載後順調に、多くの方の申し出を受け早々に見通しがついております。編集委員会では現在、相原正義、塩谷恭正、東郷正美、中村圭三、浜田弘明(アイウエオ順)の5人で作業を進めていますが、1号で公募しました大学院生、学部生、若い卒業生からの編集委員の申し出がいまのところない状態です。これから本格的な仕事が始まります。ぜひ応募の連絡をお待ちしております。執筆申込者には近日、「執筆申し出を確かにお受けました」の確認通知を出し、申込者からの返信葉書に「論文題」、あるいは「現在、このような内容を考えている」のご連絡と、「論文集」についての要望等をお聞きしたいと考えています。よろしくお願ひします。また、「執筆未確定」の連絡の方、これから執筆希望の方(少人数)は至急メールにて連絡ください。ご返事を待って執筆者を締め切りとします。

繰り返しになりますが、
原稿締め切り日 **2020年3月31日**
刊行 **2021年2月の卒論発表会、または、3月の卒業式ごろ**
連絡先 **相原正義**
アドレス：**m-aihara@nifty.com**

会員紙碑

岡永亮八郎 氏

2018年(平成30)年8月13日 逝去

享年91歳(大正15年10月1日生)
法政大学高等師範部 12回生
1951(昭和26)年3月卒業
法政大学文学部地理学科 7回生
1957(昭和32)年3月卒業
法政大学大学院修士課程
1960(昭和35)年3月修了

岡永氏は在学中も卒業後も、法政大学地理学会の発展に尽くし、また東京地理学生懇談会でも法政のために尽くされた。岡永氏が御高齢で逝去されたとはいえ、寂しい限りである。

往時、学部の授業は二部(夜間)のみであり、昼間はそれぞれ仕事を持っていたが、岡永氏は教員として勤務、やがて都立日比谷高校の教頭、さらに区立中学校の校長を歴任、また教育関係者からの諸相談にも応じていたようで、感謝の言葉を耳にしたことも多い。退職後も「法政地理」はじめ研究誌の内容について、疑問や質問の相談を受けたこともあり、研究熱心な先輩であった。また毎年の年賀状にはすばらしい版画も残されている。この秋、生前のご活躍に対して褒章を受けられるとのお話も伺っている。

御冥福をお祈り申し上げます。

合掌

(清水靖夫 記)

〈〈学会ニュース原稿の募集〉〉

法政大学地理学会ニュースに掲載する原稿を広く会員の皆様から募集しております。原稿のご相談は、下記の連絡先までお願いいたします。
連絡先：庶務委員会(shomu@chiri.info)

2018年10月15日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax. 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <http://www.chiri.info/index.html>

郵便振替 00170-9-167442

